

平成26年度校務改善事例

第9回小中一貫教育全国サミット

第5分科会「小中一貫教育の推進体制」発表資料を基に

小中一貫教育推進のための校内組織 局部課センター制 ～校務改善、人材育成をかねて～

平成27年2月25日（水）

武蔵村山市立小中一貫校

村山学園 統括校長 齋藤 実



【目指す児童・生徒像】

人にやさしく、自分に強く、

英知を磨く 村山の子

沿革

昭和41年	第四小学校	第二中学校	開校
平成20年	開設準備		
平成21年	プレ開校		
平成22年	小中一貫校として開校		



児童生徒数・学級数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	通級	日本語	小計
学級数	3	3	3	2	3	2	16	3	1	20
児童数	71	77	85	71	98	74	476			

	7年	8年	9年	計
学級数	2	2	2	6
生徒数	69	68	66	203

知的固定
1
5

中計
8

合計
28



教員構成(除 管理職 事務)

若手
25人

5年以下
19人

経験年数	小学部	中学部	合計
31～	6人	3人	9人
21～	1人	2人	3人
11～	2人	3人	5人
6～	6人	0人	6人
1～	12人	7人	19人
計	27人	15人	42人

→ 人材育成が急務



↑ 低学年部校舎
旧第四小学校舎

中高学年部校舎

旧第二中学校舎 →





旧第四小学校舎
1～4年生が使用

旧第二中学校舎
5～9年生が使用



接続棟
7m

芝生

廊下の長さ203m
日本一長い？



開校4年目

- 「この職員室には見えないバリアーがあるんです」
- さまざまな別行動
 - 運動会当日朝の準備...小学部教員のみ
 - 教育実習反省会vs職員バレーの練習
 - 別々に上がってくるさまざまな起案
 - 小学部移動教室出迎え
- 週案簿...小学部はバラバラ
- 登校時刻...遅刻判定と指導



開校時の考え方

平成22年4月、「一つの学校として組織運営を行うには、一つの校務分掌組織で行う必要がある。そこで母体となった第四小学校と第二中学校の分掌組織を考慮しつつ、新たな分掌組織を編成した。実質的には各部の中で小学部と中学部の担当が分担していることもあるが、組織運営上一つになった同一の部に所属しているという意識は、一つの学校の職員として重要なことである」と考え村山学園の分掌組織はスタートした。



モットーの明示

一つの学校
みんなでいっしょに



4年目秋以降の改革

- 登校時刻の統一
- 起案の統一
- 小中合同の各種プロジェクトチーム
 - 部活動推進
 - 教育支援
 - 小中一貫教育推進
 - 学力向上推進
 - 郷土学習クロスカリキュラム「むらやま科」創設
- 中学部教員の小学部授業支援
- 市民駅伝に小中教員混成チーム参加 2チーム



5年目の改革

- ・校務支援システムの統一...情報の共有
- ・中学部部活動への小学部教員参加...10数名
- ・校内組織の大改編
- ・小中混成の各種プロジェクト
 - 低・中・高学年部教育推進プロジェクト
 - 各教科プロジェクト
 - 体力向上
- ・経営支援会議の新設...管理職、教員、事務、用務



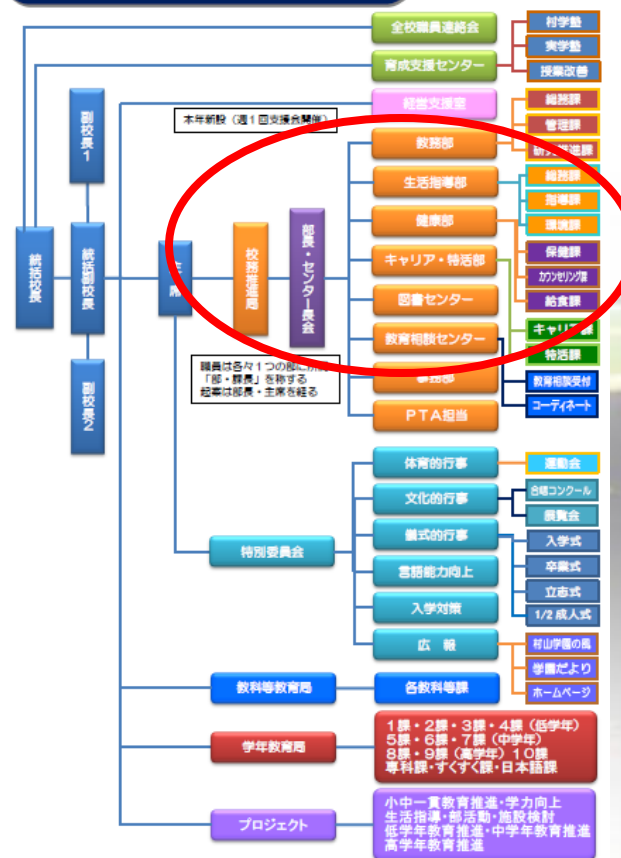
校内組織改編の基本方針

- ・「主任」という名称の廃止⇒部長、副部長、課長、課長補佐
- ・力のあるベテランの登用⇒部と独立した「センター」「主席」の設置
- ・若手の育成 ⇒「課長」などへの登用
育成支援センターの設置
- ・中堅の育成 ⇒プロジェクトチームのリーダー
- ・事務、用務の経営参画 ⇒経営支援室



校内組織の改編

村山学園の組織 (村学校務システム)





校内組織の改編





校内組織の改編...教務部の場合

従前の教務部組織

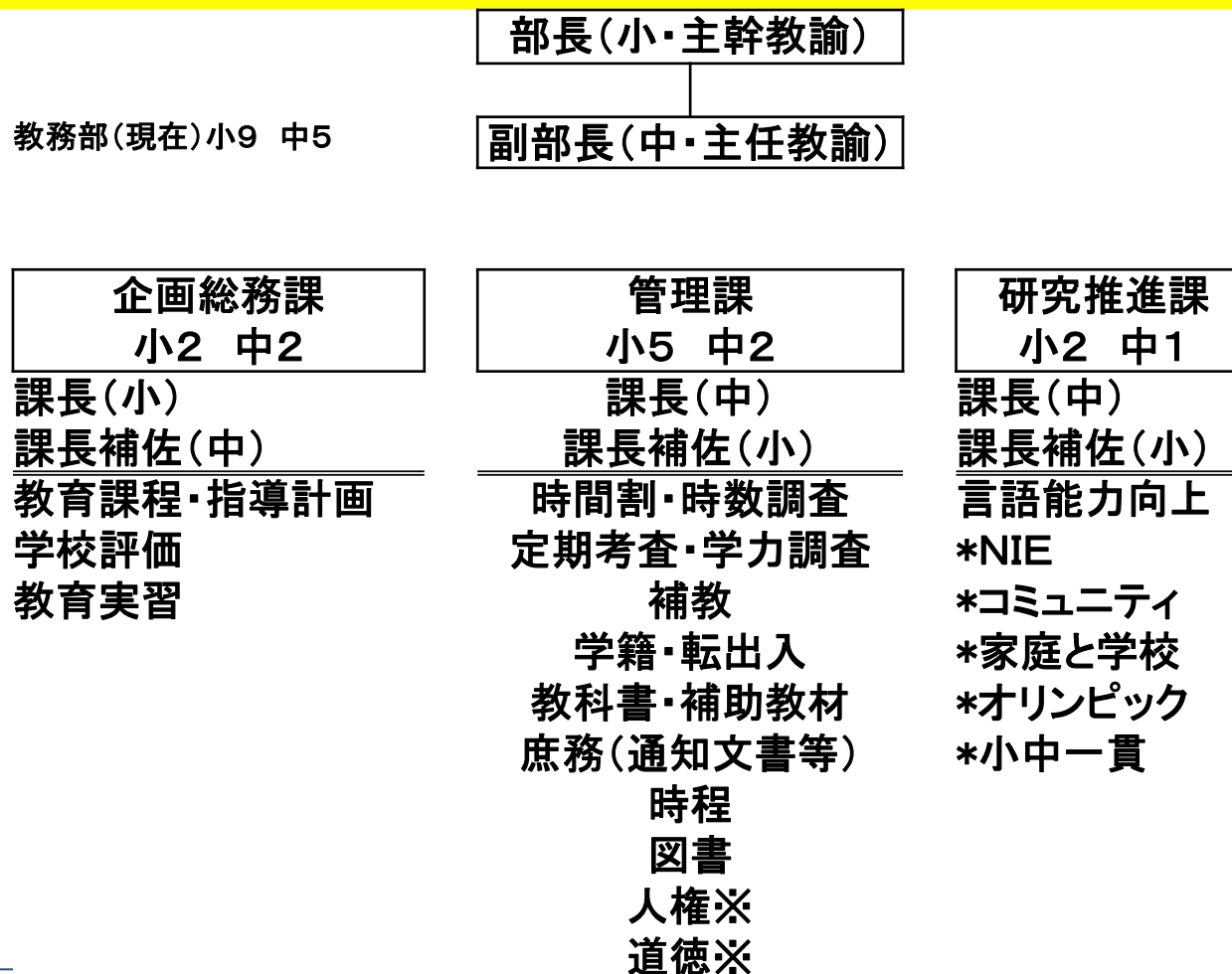
小学部教務主任

中学部教務主任

教育課程・指導計画	1人	1人
学校評価	1人	1人
時間割・時数調査	2人	1人
定期考査・学力調査	2人	1人
補教	1人	1人
学籍・転出入・校務支援	1人	2人
教科書・補助教材	2人	1人
教育実習	1人	1人
庶務(通知文書等)	1人	2人
広報(学校HP・学園だより)	1人	1人
	7人	6人

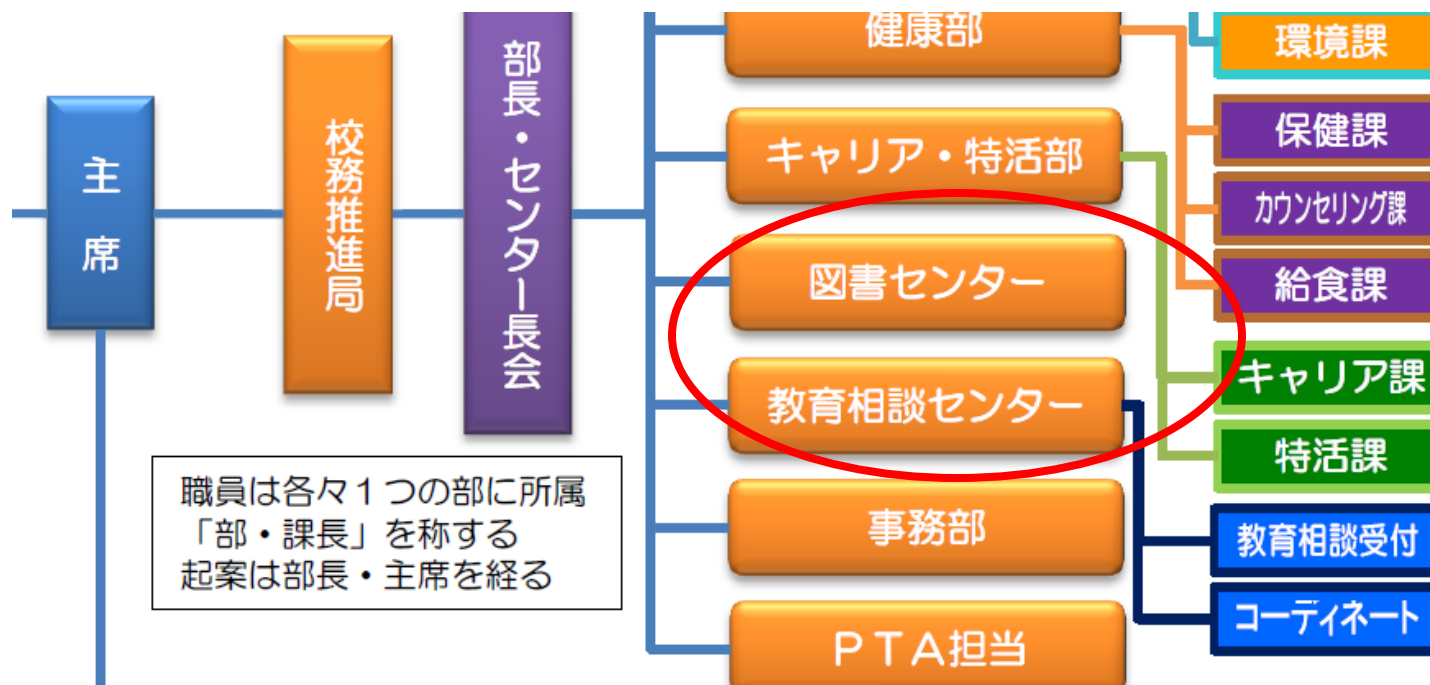


校内組織の改編...教務部の場合





校内組織の改編...人材活用ー1





校内組織の改編...人材活用ー1

各センター長の年度当初自己申告書より

- ・図書センター長

図書センター長として、中学部司書、小学部司書と連絡を取り、図書室の整備をする。

- ・教育相談センター長

教育相談センター長として、児童生徒の困り感を把握し、どのような支援が必要かを検討し、校内支援を推進する。



校内組織の改編...人材活用－2

村山学園の組織（村学校務システム）





校内組織の改編...人材活用－2





校内組織の改編...人材活用ー2

参加者より

- ・管理職、教員、事務、用務との風通しが良くなった。
- ・行事、施設、庶務等で誰が何をするのか明確になった。
- ・学校のことについて直接話をできる場があって良い。
- ・多くの意見もあり、安心できる。
- ・仕事の内容がはっきりするので働きやすい。これまでやって良いかどうか分からないことも多く、不安があった。
- ・話し合っって意見交換することで、これからの流れや見通しができ、スムーズに仕事がしやすくなった。



校内組織の改編...人材活用ー2

主な事案

- ・ゴミ箱の改善
- ・会議室の整備
- ・教室扉ガラスの透明化、カーテン設置
- ・運動会得点板作成
- ・時程変更事案...放課後補習時間新設
...ノーチャイム化...電波時計整備・設置
- ・和文化教育学会全国大会
- ・芝生校庭のサーキットレーニング場化
- ・他



校内組織の改編...人材育成ー2

各種プロジェクトチーム

プロジェクト

小中一貫教育推進・学力向上
生活指導・部活動・施設検討
低学年教育推進・中学年教育推進
高学年教育推進



校内組織の改編...人材育成－3

育成支援センター





校内組織の改編...人材育成－3

育成支援センター





校内組織の改編...人材育成－3

育成支援センター...授業改善



村山学園の人材育成



現状は

(1) 学習指導力

基本は教育委員会の研修会等で学んでいる。

(2) 生活指導力、進路指導力

現場の事案対応を通して学んでいる。

(3) 外部折衝力

経験のみに頼っている。

(4) 学校運営力

自分が担当する分掌のみ。ほとんど学ぶ機会がない。

主任になってから学ぶ。

村山学園の人材育成



東京都教育委員会提供は

東京都教職員研修センター

課題研修会

夏期に集中

教師道場

原則5年次以上

教育研究員

主として主任教諭

教育開発員

主として主任・主幹教諭

10年経験者研修会（運営は市教委）

村山学園の人材育成



武蔵村山市教育委員会提供は

若手教員育成研修会(1~3年次)

夏期研修会教科、その他

〇〇主任会

各種委員会

小中連携カリキュラム作成委員会





村山学園の人材育成

教育委員会等が提供できない人材育成への対応
自主的研究会参加の推奨

全日本・東京都中学校〇〇教育研究会

全日本・東京都中学校特別活動研究会

全国・東京都中学校学校行事研究会

全国・東京都中学校学年学級経営研究会

→会場が遠い 年間数回程度 授業の振替が必要

武蔵村山市中学校教育研究会(年3回)

武蔵村山市小学校教育研究会(年10回)

村山学園の人材育成



教育委員会や各種研究会等から提供されるさまざまな研修を積極的に活用するとともに、学園としてその補完を行う。特に学校、学年運営、学級経営、生徒会指導など教育委員会等が対応できていない部分について、独自の育成を行う。

(1) 基本的な考え方

教える

やりながら教える

やらせてみる

村山学園の人材育成

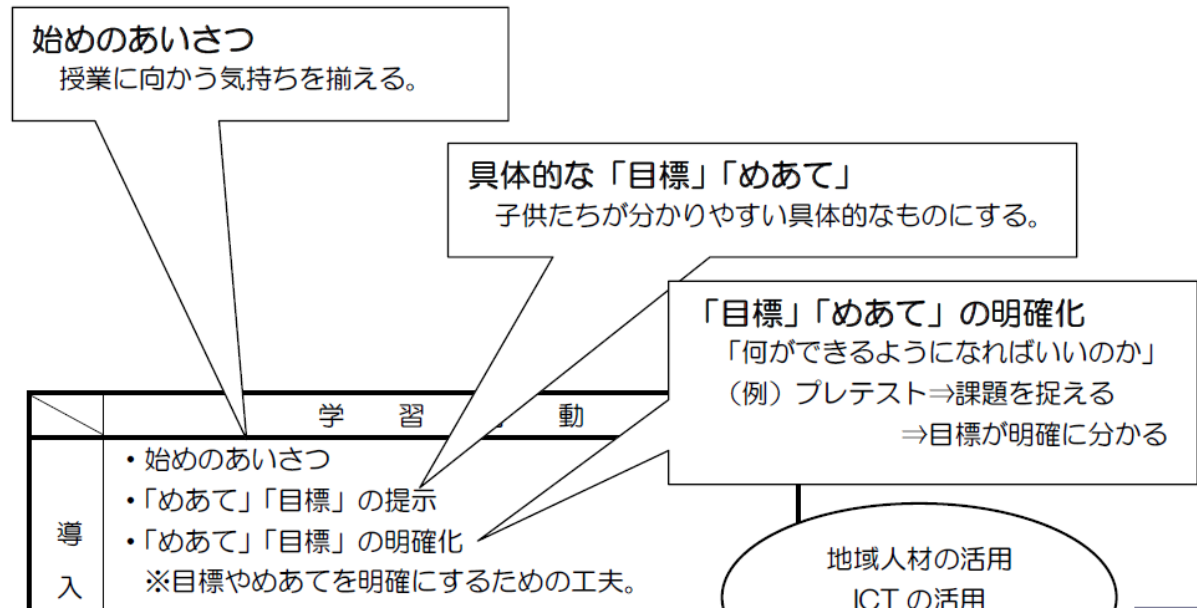


(2) 村山学園の育成システム

ア 教える

授業構成「村学スタイル」

村学スタイル(村山学園の授業モデル)



村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

ア 教える

職員連絡会

校長は最後に

ベテラン教員によるミニ講座も



村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

ア 教える

校長より...教職員向け通信

教職員各位

校長より

平成 25 年 10 月 13 日 25 年度 No.126

生徒会役員選挙…先生側の準備は

生徒会役員選挙。再選挙になったようです。

さて、先生という立場、特に中学校の先生という立場では、生徒会役員選挙についてどのように取り組めばよいのでしょうか。まさかとは思いますが、「生徒会担当の先生にお任せ」ではないですよ。

学級担任としては、クラスから推薦できるかどうか、という取組があります。学級委員と班長会で検討し、まず、クラスの中で立候補をする人がいるかどうか、いたら、その人は推薦に値するか。いなかったら、誰か推薦すべき仲間はあるか。どう、説得するか。

学年主任や学級委員会担当だったら、学年の学級委員会に投げかけることも考えます。



村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

ア 教える

村学塾 内外の講師による公開講座



村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

ア 教える

実学塾

CS学校運営協議会・教育支援Pより講師



村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

イ やりながら教える

○JT組織と文書決裁

○JT アンケート

学年 _____ 分掌 _____
教科 _____ 委員会 _____ 氏名 _____

	自己評価	希望する研修内容	希望する ○JT担当者
学習指導力			
生活指導力 進路指導力			
外部との 連携・折衝力			
学校運営力 組織貢献力			

A=充実期超 B=充実期相当 C=伸長期相当 D=基礎形成期相当

村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

イ やりながら教える

OJT組織と文書決裁

武蔵村山市立第二中学校

OJT:計画表

平成25年度

職名	氏名	年次	だれを育成するか				だれに育成を受けるか					
			OJT 責任者	OJT対象者			OJT 責任者	OJT担当者				
				学習	生活 進路	外部		学校 運営	学習	生活 進路	外部	学校 運営
3 主幹教諭	C	35	J		d	I b e f g i	J	B				
4 主幹教諭	D	27	GH	I b	e	i	I a b d e g	B				
5 主任教諭	E	32	FI	a e	I f g h i	d e h	h	B				
16 教諭	f	4		c h				H	校長	EH	C	B
17 教諭	g	3						J	I	EH	C	D
18 教諭	h	2						E	f c	BE	BE	BE
19 教諭	i	1						H	I	E	CD	B

村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

イ やりながら教える

○JT組織と文書決裁

主幹教諭

D

武蔵村山市立小中一貫校村山学園

			希望する研修内容
だれを育成するか	OJT責任者	GH	
	OJT対象者	学習	lb 言語能力の向上を意識した授業づくり(I) 創作領域の実践の充実(I) 主体的な学習を促す力(b)
		生活進路	e 生活指導・進路指導上の課題を発見し解決する力を身に付ける研修(e)
		外部	i 保護者とのコミュニケーションの取り方。業者との円滑な職務遂行の方法(i)
学校運営	labdeg 校内研究の充実についての具体的手だて(I) 上司や同僚とコミュニケーションをとりながら円滑に校務を遂行する力をいかにつけるか(a) 校務において、企画・立案する力(b) 1年を見通した校務計画の立て方(d) 要点が伝わりやすい文書の作成方法(d) 組織の一員として校務に積極的に参画する力を身に付ける研修(e) 部活動や運動会など学校運営に関する提案事項について、提案者や意見調節を行う立場として参加し、その言動や姿勢について指導・助言を受ける研修(g)		

村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

イ やりながら教える

毎年の研究発表 ...全員が毎年数回の研究授業
仮説とその検証





村山学園の人材育成

(2) 村山学園の育成システム

イ やりながら教える

毎年の研究発表 ...全員が毎年数回の研究授業



村山学園の人材育成



(2) 村山学園の育成システム

ウ やらせてみる...若手をチーフに登用

各種プロジェクトチームの設置と活用

- ・小中一貫教育推進プロジェクトチーム 顧問・副校長
- ・学力向上推進プロジェクトチーム 顧問・副校長
- ・社会貢献意欲向上プロジェクトチーム 顧問・統括副校長
- ・部活動推進プロジェクトチーム 顧問・統括校長
- ・コミュニティスクール推進プロジェクトチーム 顧問・主幹教諭
- ・「むらやま科」開発プロジェクトチーム 顧問・主幹教諭
 - ・教育支援プロジェクトチーム 主幹教諭
 - ・生活指導プロジェクトチーム 主任教諭



村山学園の人材育成

(2) 村山学園の育成システム

ウ やらせてみる...若手による自主研修会
スキルアップ研修



校内組織と教職員側の意識



小中一貫校村山学園
主席

村山学園の校内組織

第1期 プレ開校～開校2年目（H21～H23）

「一体型校舎」「一つの職員室」

- ・小学部・中学部、別々の校務分掌組織
- ・課題毎にプロジェクトチーム（運動会・生活指導等）
- ・別々の教育課程
- ・別々の行事予定表

「合わせる」「見えない心の壁」

村山学園の校内組織

第2期 開校3年目～開校4年目 (H24～H25)

- ・校務分掌組織の一本化
 - A「教務部」「生活指導部」「進路指導部」
 - B「保健部」「特別活動部」「研究部」
- ・特別委員会による行事の企画・運営
 - 体育的行事委「運動会」
 - 学芸的行事委「合唱コンクール」「学芸会」
- ・課題毎のプロジェクトチーム
- ・一本化した教育課程

村山学園の校内組織

第3期 開校5年目～(H26～)

- 校務分掌組織の完全一本化(部課長制)
- 特別委員会による行事の企画・運営
- 課題毎のプロジェクトチーム

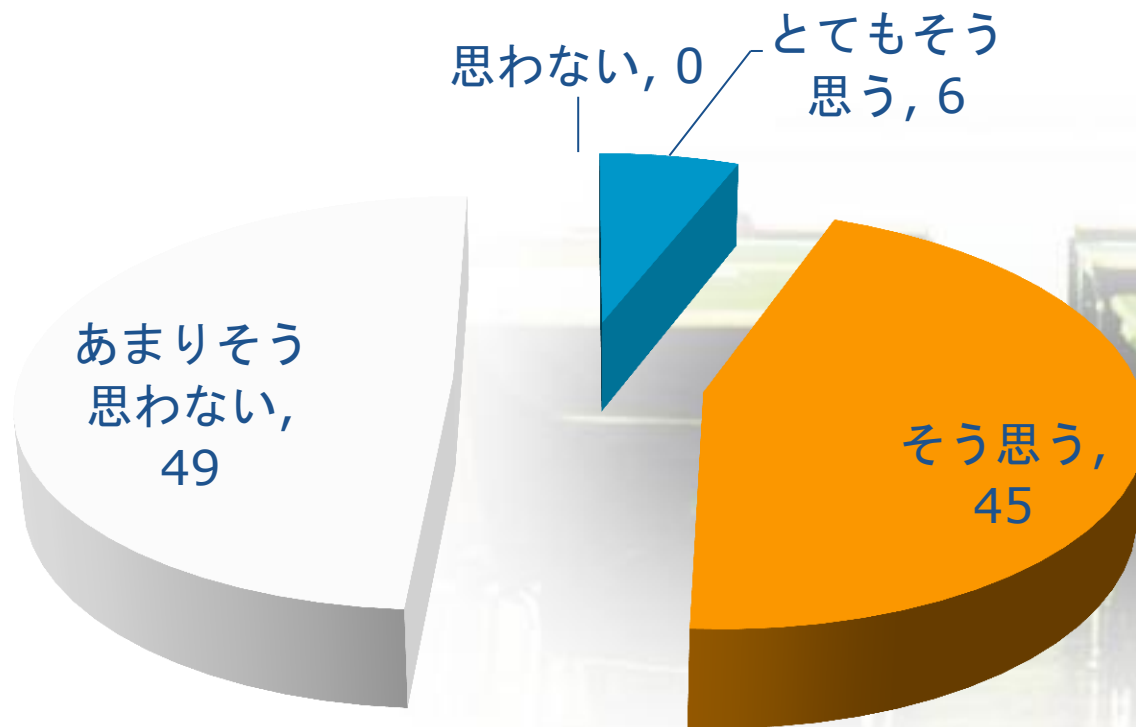
- 施設検討PJ
- 生活指導PJ
- 部活動PJ
- 小中一貫PJ
- 体力向上PJ
- 学力向上PJ

- 健康・食育PJ
- 低学年部教育PJ
- 中学年部教育PJ
- 高学年部教育PJ
- 教科別PJ

学校評価にみる教員の意識

7月学校評価・教職員アンケート

「村学校務システムに慣れ、一貫校としての提案を行うことができましたか。」



教員サイドからの利点

- ① 担当する校務が**明確**になり、一人一人が**責任をもって**取り組むことができる。
- ② 各部の組織も**完全一本化**となり、**責任の所在**が明確となり、スムーズに企画・起案ができる。
- ③ 以前に比べ、担当する**校務が少なからず減少**し、他の教育課題に取り組むことができる。
- ④ **少人数で担当**するため、小中の担当者間での意見交流も深まり、一貫した立案ができる。
- ⑤ 様々な教育活動を企画・立案・検討、**起案・提案する能力**が高まる。
- ⑥ **OJT**が行いやすく、若手教員の能力を高めるよい機会となる。

小中教員の交流の深化

教科プロジェクト・教育課題プロジェクト

話し合う機会の増加

↓
日常的な交流

↓
9年を見通した見方・考え方

開校以来の伝統

グループによる授業分析を中心とした校内研究

残された課題

ベテラン教員への対応

転入・新規採用教員への対応

校長**新**提案への早期対応

ご静聴いただき、
ありがとうございました
